

発行 富山県医労連書記局

〒931-8313 富山市豊田町 1-1-8 Tel&FAX076-441-7360
E-MAIL toyamakenirouren@dream.ocn.ne.jp

看護職員労働実態調査結果富山県版概要

全国とほぼ同じ結果に

- ①慢性疲労 74.9%
- ②健康不調を訴える看護師 35.6%・全国全産業 16%
- ③健康不安を感じている看護師 76.6%
- ④看護職員の73.7%が何らかの薬を常用
鎮痛剤 51.6%・睡眠導入剤も多い
- ⑤妊娠時夜勤当直は64%が免除されていない
- ⑥「切迫流産・早産」41.6%・全国全産業 27.5%
- ⑦看護にやりがいを感じつつも看護師の77.5%が
仕事をやめたいと思いつつ働いている



●一言欄から
・体調面で夜勤を減らしてほしいが、そうすると他のスタッフに負担がかかるので言えない

- ・日勤・深夜の勤務が多すぎる
- ・深夜の前でも早く帰れない
- ・日勤・深夜でも日勤が定時に終わらないので間隔が短すぎる
- 事故を起こしそうで怖い

●慢性疲労の背景には夜勤問題が…
●国に要求しているすぐにも改善が求められる夜勤の課題

- ①勤務間隔は8時間以上
- ②長時間 16時間以上夜勤は無くす
- ③夜勤回数9回以上の罰則付き法制化

**安心安全の医療看護の為の
夜勤改善・大幅増員国会請願
運動をさらに大きく…**

- 5月～8月
市町村議会意見
書採択請願行動
- 9月
大宣伝行動
- 10月
国会請願行動



県医療労働組合連合会 (県医労連)

県内4病院758人が調査に回答

富山県医労連は、日本医労連看護労働実態調査富山県版(県内看護師758人が協力・詳細別紙)をまとめ記者会見を行いました。大浦委員長はじめ、準夜入り・深夜明けの看護師も同席しました。11時から始まった記者会見には、TV局4社(NHK、BBT、KNB、チューリップ)新聞社4社(北日本、富山、北陸中日、読売)ほゞ全マスコミが来場しました。取材時間は30分くらいで終わる予定でしたが記者とのやりとりも多く12時に終了。記者「背後には人手不足があるのですか」県医労連「そうです」

**依然として絶対的な
人手不足による
深刻な健康状態**
看護の日に
労働実態調査
記者発表

まだまだ
知られていない
勤務間隔の短い勤務



チューリップTV
5月11日夕方放映



記者「県の肩持つわけではないですが、勤務環境改善センターってあるのですよ」県医労連「全国に設置されていますが指導権はありません。日本は欧米に比べ医師看護師の数は2/5分の1、ILO看護条約も日本政府は批准していません。国を変えないと根本的解決は出来ない」記者「メンタル疾患は増加傾向ですか?」県医労連「多くなっているな」といのが実感です」記者「日勤深夜つてまあるものですか」県医労連「月4、5回あるのが当たり前です」チューリップテレビは左記の日勤深夜の時間帯柄セクハラについて聞き質問もありました。



TV局4社(NHK、BBT、KNB、チューリップ)
新聞社4社(北日本、富山、北陸中日、読売)ほゞ全マスコミが報道